京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

[illegible]
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜錄

漢城より

（二十三日）　熊浦逸人

▲吾等は今日、東洋拓殖會社副總裁吉原三郎氏の半島殖林に關する意見を紹介せんとす、世人は必ずや氏の垢ぬけしたる意見に傾聽して大に得る處あるべきを吾等は確信す。

▲氏は曰く「半島全土の森林を政府の手にて經營せんは到底不可能事たり、併し之れを賣され能ふとも不利益なるは云ふ迄も無し、并は今や內地に於て當局者が謂ふ文官林の多くを民有に移さんとする方針を執れるに鑑みて之れを知るを得べし」と、吾等は半島の林政が氏をして此の言を爲さしめるの理由あるを知る、彼の定められたる部分林制なんぞは、金利高く、勞銀安からずして、而かも樹木の生育極めて遲き半島に於ては殆んど辨令に等しからずや、尤も間には好事家の在る有りて、之れを試みんとするもあらんが實は所謂思惑以上の所信を抱けるものなるや頗ぶる疑はし、去れば氏の言果して吾等の見るが如く、半島の林政が適當に施行せられざるを非難せんとするに在るや、或は單に一般的原則を闡明せんと欲するの意なるやを知らずと雖ども吾等は半島林政の現狀に見て何も彼も取込み主義たる林政當局者を難ずるの言として聽くを恰當せりと信ず。

▲或は又曰く「予は半島に於て近世式殖林法を施すを最善の方法なりとは信ずる能はず、假し最善の方法なりとするも今の半島に於て普く實施し得らるべきに非らず、故に予は自然殖林の最も半島に適合せるを覺ゆ、設し誤て予の所信中れりとせば半島に殖林して良材を伐り出さんは決して容易の業に非らず、否寧ろ不可能事に屬すとせん、若し夫れ收益の上よりすれば、自然殖林は些の費用を要せず、唯一片の法令を以て半島全土の山容を改むるを得べく、同時に治水上の利益は輙く之れを收めて諸般の產業に頗つを得べし、其の莫大の費用を投じて而かも年を期して全土に普及し能はざる近世式殖林に比して孰れを撰ぶべき乎」と、一本の木を植うるにも欵金を投じて模範林といふものを造り、之れに學べよと云ふとも、今の半島に於ては其が金の登る木ならざる限りは先づ以て六ケ敷注文なり、尤も吉原氏と雖ども進步したる殖林法の行はるべき時機の到來を疑はずと云へり吾等も亦實かく思ふ、然れども今は其時機に非らずと云ふことなり、如何に垢ヌケしたる所說ならずやナマナカ學問に責められての施設は爲政上に於て不可、吾等は獨り半島のみと云はず、我帝國に於ては垢ヌケしたる政治振りを要するや極めて切也當局者以て如何となす。

雜報

清國の北滿移民

錫東三省總督が過般北京政府の召見に應じ滿洲今後の經營に關して連日會議する處ありたる結果その經營方針の一として政府の贊成を得て湖南湖北の貧民を滿洲に移住せしめ以て滿洲經營の基礎を確立するの計畫を定めたる由なるが由來清國の滿洲移民獎勵は多年の宿題にして政府當局の間にたいて研究されつゝありし問題なりしも常に財政の缺乏と幾多の障害に依りてその實行を見る能はざりしが近來露國の移民政策により露人の黑龍江より北滿洲方面に轉住し來る者頗る增加して滿洲人の利益を減殺せらるゝの憂あるのみならず日露協約の成立日韓合併等の實現によりて將來の滿洲に對する甚大なる影響を與ふるに至るべきを考察し今日より確乎不動の經營基礎を樹立するの最大急務なるを認め錫總督もこれがため尠なからず苦慮する處あり曩にも兩湖の貧民數千を滿洲に送りしが時機を失したると滿洲一般凶作なりしためこれ等の移民は終に施すに術なくして窮餘不穩の行動をすらなすに至り全然失敗せしことありしが這は財政困難なりしため移民貧民に對して生計費及び小屋掛け料等の支給その他農具の供給を怠りし政府當局の施設宜しからざるに基因せるものにしてたゞ僅かに大体の方針を樹立したるのみにて直にその効果を擧げ得べきものにあらざれば清國當局たるもの能く意を玆に致さゞるべからず今回の移民計畫が果して如何なる程度まで成立し居るやは不明なるも要するに經費の充實を圖るを以て先決問題となさゞるを得ずと某清國通は語れり

●釜山水產會社成蹟

釜山水產株式會社附屬魚市場に水揚せる本年上半期の漁獲高並に賣揚高を昨年上半季の漁獲數並びに賣揚高と昨年度上半期に比較するに昨年は五十一萬貫にして今上半季は五十三萬八千貫となれり之れを以つて見れば約三分の增收となる譯合なり然るに今賣揚高を比較する時は昨上半期は三十六萬二千八百圓にして今期は三十四萬三千四百六十一圓にて昨上半期より減少せしこと二萬三百三十九圓なり而して漁獲高に於ては昨上半期より二万七千貫增加しながら賣揚高の減少せるは需用者の增加せしと漁獲高の多き爲めにして一日の平均相場を比較するに昨上半期は七圓十四錢今上半期は六圓九十四錢となるを觀て賣揚高の減少せるを知るべし又入船數を比較する時は昨上半期は一日平均百十五隻今上半期は九十七隻にして一日平均十八隻を減せしが其原因は本年度に入りて自然地方沿岸も開拓され其需要者も殖ゑ釜山迄で持ち歸るの必要を生ぜざるより漁船が各自希望の所に運搬せるに依れり漁船は減少しながら其漁獲高の增加せるは全く漁業法の進步せると魚類の豊富なりしなり

講談

大岡政談 越後傳吉

第八十三回　旭堂南陵講

乙「ッサア斯うなると一同の百姓が皆レ旦那どんが引取られた、命が助かつたい斯うなきやアなんねヽだ、天道樣は正直をれ照しになるのだ」サア〳〵いふて郡奉行の表へ人が集つて來る、軈て菅谷主水は戸田能登守目附役沼田新太夫に面會いたし、伊賀守殿よりのれ書付を渡した

頸城郡賀田村名主傳吉
右當人罪科の儀疑はしき廉之有候に就き處刑の儀差控へ申すべき事
年月日　松平伊賀守
戸田能登守家來殿へ

といふ書付、紛ふ方なきものでございますから沼田新太夫「委細承知仕りました　主「尙當人は餘程手酷い拷問に掛つて居るやうであるから、萬ケ一當人の身體に間違ひ等あつては相成らぬから、充分勦り遣はせ、また食事萬端水攪り等の憂ひがないやう注意を與へてくれるやう、殘る方なく菅谷主水殿が注意に相成つたうへ一先づ駕籠にて追分まで引揚げに相成るサア戸田家ではもう黒崎伴右衛門に渡して置ない何しろ伊賀樣の勢ひを以て傳吉の身體に間違ひがないやうと呉々も菅谷主水からの言葉があるから早速傳吉は相當の手當をいたし、目附役から老臣一同相談のうへ黒崎伴右衛門の手で扱はないやうにいたされましたのは傳吉の幸福でございます、さて菅谷主水は立戻つて參り、危機一髮の場合に傳吉の一命を救ふたことを伊賀守樣へ申上げましたこれについて伊賀殿が考へに相成つた　伊「餘ほどこの事件は入込んで居る、何れとも江戸表へ持出し、江戸にれいて裁判をいたさねばならぬ、れ仙與兵衛兩名共に今一應詳しく調べに相成つた末、詳しく事情をれ認めに相成り伊賀守樣より江戸表老中松平伊豆守殿の方へ此事をば申し送られた、松平伊豆守殿がこれをば悉く御披見に相成つて何かな入込んで居りまするこ と　豆「誰を以て裁判に當らしたら、宜からう、全體なれば地方の事であるから順を追ふて參れば異野奉行、あの人が裁判するのであるが、餘ほどの器量人が裁判に馴れた人でないとこれは裁判が附くまい、當時名奉行といはれた町奉行大岡越前守ならでは、是だけ込入つたる事を裁判上げる者はなからう、と思召した、町奉行の係りではないけれども、特に越前守殿にこの難役を仰付けられました、係りでない役を我身に仰附けられた越前殿の名譽、美事裁判上げやうといふ意氣込かれ受けをいたされ直ぐに戸田能登守の方へ御沙汰傳吉江戸表へ差立つべき者、尙當人身体疲勞をいたして居るやうなれば道中水攪り等の憂ひがないやう充分に注意をいたして送れといふ何故斯ういふことを再三言渡しがあるかといふと、役人の方で怪しいことがあると、道中で毒を飲まして殺してしまふ、水攪りのため到底死にましたといふことを能くいひ出すものさういふことをしられぬやう詰り毒害の豫防でございます、伊賀守樣はこれから漸次々々と御沙汰を受取になる、其次は與兵衛、れ仙の兩名を江戸へれ差廻しといふことになつた、この二人は江戸へ差廻されました、今度の一件掛合一同の者も皆これに續いて江戸へ出る何しろ越後から江戸へ出ることになつたんですから隨分の騷ぎ、庄左衛門にれ早、甚右衛門に三右衛門、郡奉行黒崎伴右衛門等殘らず江戸表へ出る、傳吉の身體は最早江戸へ到着いたし他のものも又夫々江戸へ入つて參り、庄左衛門、れ早等は馬喰町二丁目の旅籠屋又兵衛といふ越後屋へ泊りました、尤も公事が出來た者は大概この馬喰町へ泊る、それは越前殿が調査向きに係り双方の調べをせねばなりませんから宿を思ひ〳〵に取れると、彼方此方へ呼出狀を附けねばならぬ面倒があるから、公事宿といふものを馬喰町へ一緒にれ拵になりました



東京電報

▲東宮京都御着

東宮殿下には二十五日京都に御着あらせられ奉迎盛んなり(廿六日)

▲米國大使の渡鮮

東京駐剳米國大使オブライエン氏夫妻は武官通譯官其他隨員數名を隨へ朝鮮滿洲、支那視察の爲め二十五日新橋を發せり停車場には各大臣各國大公使其他官民多數見送れり大使の旅程日數は約五十日間の豫定にて十一月歸京する由(同上)

▲大連絡船の建造

關釜連絡船は釜山棧橋改善を期圖し三千噸の汽船二隻を建造すべし(同上)

北京電報

▲載濤貝勒の伏奏

載濤貝勒は軍備擴張斷髮問題及外債を以て實業を振興するの便法等を攝政王に伏奏せり(廿六日)

▲米陸軍卿の參內

米國陸軍卿は參內謁見の際攝政王より外務部を經て御內庫の珍藏骨董品數點を贈られたり(同上)

雜報

統監とデ氏會見

寺內統監は廿四日午後七時より前獨逸拓相デルンブルヒ氏一行並に獨逸總領事仁川の獨逸紳商バタマン氏を主賓とし大久保司令官、各參與官、小宮前宮內次官、大屋、池田兩管理局長、獨逸記者ボリアン氏等四十餘名を統監邸に招待し盛大なる晩餐會を開けり席上統監は前拓相に朝鮮併合顛末其他の情況を語り前拓相は今後の產業施設に關する統監の意見を聞き主客歡を盡して十時散會したりと

デ氏の仁川遊覽

目下入京中の獨逸前拓相デルンブルヒ氏は統監府本田通譯官の案內にて廿六日午前九時より鷺島模範園藝場を觀覽せられ午後は仁川に赴かれ同日歸京さる

新官制の發表期

既に閣議に於て決定し來る廿八日樞密院を通過す可き總督府官制は總務部內部農商工部度支部の二部とし學部は內部の一局となり外務部は外事局と改められ監査部は調查局となり鐵道管理局は鐵道院の手を脫して總督府鐵道局と通信管理局も亦總督府通信局となり各部の高等官二百名陶汰され經費節減百五十萬圓なるが公布の形式は日本政府に於て發表すると共に總督府より告示する筈にて日取は三十日と確定せる由

▲大阪期米電報▼
▲前場[illegible]七十七錢▲十一月止七十七錢
▲後場(廿六日)九月限寄不申▲十月限寄七十[illegible]錢止七十九錢▲十一月限寄七十六錢止七十錢

▲仁川米豆取引所▼
[illegible]三錢五錢▲出來高二百石▲十一月一節八圓八十九錢九十錢[illegible]錢▲二節九十錢八十九錢九十錢[illegible]錢▲三節八十九錢八錢七錢▲出來高三百五十石

新官制と度支部

來る十月一日より實施さるべき新官制の內容中度支部分課の配台は從來一局たりし關稅局及臨時財源調查局は課となりて司稅局に隸屬し建築所の所管たりし諸工事の內普通の建築事務は總督府總務部營繕課の所管に移り海關工事は度支部に殘る筈にて印刷局及煉瓦製造所は是又總督府の直轄に移屬すべし

合併後の產業振興策(九)

東洋拓殖會社副總裁 吉原三郎君談

問題が頗ぶる廣い、で產業各般の振興に就て一々に稽查し論究しやうといふことは能く一朝一夕に爲され得べきでない、併し產業の中でも商業なり工業なり乃至鑛業漁業等の發達は幾多の歲月を期せねばならず、殊に朝鮮は到底農を基とすべきものと信ずるが故に、予は產業振興策をば農業振興策とのやうに限りて少しく意見を演べやう、尤も農業の發達に伴れては商工業其他も操作さるべき道理なれば、直接と間接の差こそあれ矢張各般の產業振興策を意味すとも云へやうが、但し不意の襲撃に遭ふて太刀先もシドロ、モドロの體だ、且つ予は其道の學者でも無いことを承知の上聞いて頂きたい。

單に農業振興と云つても論ずべき範圍は中々狹く無い、先づ農產物其のものに就て云へば、今日では米が主要產物で大豆其他の雜穀もあるが、是等普通農產物の外にも遠からざる將來に於て特種產物が發見され若くは發達せしめられねばならぬ、何れの國にても農業の範圍は大凡定まつて居る、然れども農業學問の進步に伴れて特種產物が出來る、朝鮮にては特に此の方面に開發の餘地が多い、例へば養蠶の如き有利な事業にして氣候の關係など內地よりも好適なりと稱せらるゝ程である、果樹の栽培、之れも大に發達すれば勿論販路に困る筈は無く、利益も麥や大豆に勝ること云ふ迄も無い、此の外麻、煙草或は蔬菜等氣候地力に應じて將來發達すべきもの將た發見せらるゝものも多く有るであらうが、要するに在來の作物には種苗耕作法等の改良を加へ、有望なる特種產物の產出發達を努むるは最も必要なることゝ思ふ。

叙上は生產振興に就ての意見なるが、其の之れを遂げんとするに於て茲に欠乏せる重要なる事項がある、即ち智力と資本との二つである、予の考へでは朝鮮人に簡易なる農業敎育を施すことは太だ必要なことゝ思ふ、尤も敎育を施せばとて刻下に効果を收め得べきものでは無いが、何時とは識らず非常なる効力の現はるゝものだ、我內地に於ても早き頃農業敎育の普及を謀り一般に無用の業として斥けられたる例もある、去れど今日に至り其効果は顯はれた、抑も我本國の耕地は維新當時と今日とに於て殆んど廣狹の差は無いのである、而かも其の收穫高は殆んど當時に倍蓰する有樣である、これぞ農民敎育の賜たるは言を俟たずだ、我國の農業敎育に就て予は新知識と經驗否舊慣との衝突やら、新知識に對する世人の誤解やら、種々面白く可笑しき事件に遭遇したのだ、朝鮮に於ても農業敎育を施さんとせば必ず同樣の事柄も起るだらうが、從來經驗と知識とは他人じやない、經驗に依て成れる舊慣には固より一分の眞理は含まれて居るものゆへ善く夫等の調和を計りなば朝鮮の農業を發開するに此上無き强味であらう、次には資本の欠乏である、朝鮮には資本が欠乏して居る、然るに資本の欠乏と云ふものは之れを利用せざるより起るもので、朝鮮人は資本を利用せざるが以に欠乏して居るのである、其の利用せざるは怠惰なるが爲めで、怠惰なるは蓋し惡政の結果である。

サテ愈々予の希望するが如く朝鮮人に農事上の知識を注入し、資金の欠乏を癒し、農業の改良行はれ、且つ地力に相應じたる特種農產物發見されたりと假定して、尚ほ無くて叶はぬ然かも個人の業としては到底成され能はざる二三の事柄がある、开は交通機關の設備と治水等である、鐵道の布設、港灣の修築、道路の開鑿等固より政府の事業で無くてはならぬ、但し政府事業とて必ずしも馬鹿に大袈裟な而かも不釣合にして効力の少き治道法を講ずるには及ばぬ、拍子木か豆腐の如き內地の縣道國道にも見ざる幅廣ろき四角な短き道路は入らぬ、縱狹くとも永くして使用に堪ゆる道路幅を備ふるを必要とする、これは一例であるが成る丈け費用を少なく早く施設して欲しいのである、港灣鐵道皆な此の主義即ち產業開業主義の下にやつて欲しい、又治水も個人の業では無いと思ふ、灌漑、排水、水源の涵養等一々茲に論ずることは略すとして、治水は其のものゝ性質上政府の力に俟たねばならぬことである、尤も水利組合の如き內地人が軸に成りて朝鮮人と共同組織し相應効果を收めつゝあるの例が半島南部の地方に存るが、朝鮮人は大に喜むでゐる、若し給水料徵收に關して經營者を保護するの制度を設けたならば個人なり會社なりの手に發利事業として水利業を起さしむるも可からう、斯く論じ來れば產業のみにても殆んど際限が無いが、大体に於て朝鮮の產業と云へば先づ農業、農業の振興を圖るには上に演べたる處を以て梗概を盡したものと思ふ。

夫れから農業と關稅との關係は甚だ重大なるものがある、農產物にして朝鮮の需用に余り內地に販路を求むるものは今日の關稅は困る、併しながら若し販路を內地に限らずして廣く外國に求むる程の生產あらば又苦痛とするに足らぬ譯だ、要するに關東都督府の許可せる農業の如き狀態に陷らざる樣產業家も監督者も共に注意して產業の振興を圖るべきである云々。

前回市原盛宏君の談中三十三行目農業及の下に產業とあるは漁業の誤につき正誤す

●各地方其後の狀況

[illegible]を報じ來り殆んど特記すべきものなきは寧ろ不思議とする程なりしが始めの程は種々の流言飛語行はれ或は日本政府は吾等の習慣を打破して婦人服は日本[illegible]べく甚しきは結婚出產等に課稅すべし等唱へ民心兎角恟々たりしも其後當該官憲の巡回諭示によりて其虛妄なるを[illegible]り昨今は到る處に祝賀會の催ある[illegible]如き居れる有樣なりと云ふ

●園藝品評會の開場

第一回朝鮮園藝品評會は愈々二十六日より開場することゝなり會場なる黃金町舊農商工部は正門に大國旗を掲揚し萬國旗を高く飜ふ等種々意匠を凝らしたる裝飾を施し朝鮮全土より產品せる園藝品を各室に陳列したるが同日は午前十一時より審查會を開き前農商工部次官及び各局長等出席し審查長豐永博士を始め審查官向坂技師及び前日特に出張し來れる平壤勸業模範場技師花井藤一郎氏鎭南浦農商工部園藝模範場長久治米邦臧氏同勸業模範場野木技師の四名及び民間より撰拔されたる大塚力藏、園田九平、辻本嘉三郎、西川秀吉の四審查委員の立會ありたり尚ほ二十七日一日にて同審查會を了し二十八日より一般民衆の展覽を許す筈なるが該品評會に於ては審查後各等級の番號を附し觀覽者をして其優劣を解せしめ得べく其番號を附したる儘陳列すべしと

●地方慈惠院の近況

朝鮮全土に於ける十三慈惠醫院の近況に關し內部衛生局長語つて曰く地方の慈惠醫院は近來殊に成績を擧げつゝあり各醫院には夫れ〳〵二名の軍醫又は軍醫正を置きて其診斷施療に充て居れるか昨今淸州、全州、咸興、平壤等何れも平均三百內外の患者を收容し專ら之れが治療に盡瘁し居れり而して日々新たに入院する者亦多く常に四五十を下らず患者の大多數は朝鮮人にして內科、外科、眼科等何れも其多くは梅毒及び皮膚病等なり十三道の慈惠醫院に關しては今尚は建築中のものあり又之れより建築に着手せんとしつゝあるも在れば未だ全部の調查は不可能なれども無論落成の上は地方朝鮮人に多大の便益を與へ好良の成績を擧ぐべきは茲に豫言を憚らずと云々

●軍用地の返還問題

京城民團へ貸下げられ居る龍山軍用地は其筋の必要により今回其一部の返還を命ぜられ過日の民會に於て古城民長より契約上拒むべからざる所以を報告せるに元來同軍用地には現在使用者に於て堀立其他必要工事を施しありて如何に契約當然の結果なりとて無償に之を取上げらるゝは慘酷の措置なりと囂々議論出で一時議場に花を咲かせたりしが結局二十三日の民會に於て釘本、皆川、石井の三氏より建議案を提出し該建議案の主旨を貫らして當局者へ相當の代價を仰ぐべく決し委員に皆川、石井、竹內、山口、關の五氏を撰出せり

●獨逸武官と總監部

東京駐剳獨逸大使館武官陸軍大尉男爵ベルナウキッチ氏同夫人及同フォンアールケンハウゼン氏同夫人並に外交官補バンク氏は通譯荒木常吉氏を伴ひ併合後の韓國政況視察の爲め兩三日前入京せしが二十五日警務總監部を訪問して廳內を視察し迎接官より委細聽取し去れり同一行は二十六日京義線を經て滿洲を視察し旅順の戰跡を見大連より海路北京へ赴く豫定なりと

●宣敎師大會の終了

去る十八日より開催中なりし平安北道宣川に於ける外國人宣敎師大會は二十三日を以て終了せるが右會議の內容は開城に於て開會決議せしものと大差なく今後に於ける布敎方針及本年度會計報告並に明年度豫算其他宗敎學校の設立等なりと云ふ因に同地會合者約五十餘名なりしと

●獨逸領事館の招宴

廿五日午後七時より獨逸總領事ボリアン氏は前拓相デルンブルヒ氏を領事館に招待し盛んなる晚餐會を催せり

●岡本參謀の出張　駐剳軍岡本參謀は二十七日出發北朝鮮地方地理視察の爲め四十日の豫定を以て出張したり

●露國領事の出發　京城露國領事館に滯在中なりし元山露國領事ミルコブ氏は二十三日午前出發長崎に向ひたり

●榊原少將の引籠　榊原軍參謀長は先日來より病氣の爲め引籠中なりと

獨前拓相の出發

獨逸拓相デルンブルヒ氏は豫定の如く廿七日朝九時發列車にて安東縣に向はるゝ筈なり

東拓社と視察團

東拓の勸誘に依りて渡來す可き實業視察團出迎の爲め東拓會社より先發隊として同社三浦書記は來る三十日釜山に向け出發し翌一日林理事松田庶務課長中村書記は同地に赴く可し而して視察團は二日釜山に上陸し直ちに馬山浦に向け出發する豫定なりしも航程の都合に依り一日完繳下ることゝなれりと云ふ

●櫻井小學校落成式

櫻井小學校新築落成式は二十五日午前十時より同校講堂に於て擧行されたるが寺內統監代理として有吉總務長官、大久保大將以下數十名一同着席するや古城民長の式辭、君ケ代、校長の勅語捧讀、唱歌、民長の報告等あり後統監代理有吉總務長官の訓辭演說あり次で石原校長及び兒童總代の答辭、民長の閉會の辭にて午前十一時二十分式を總へたるが正副來賓等食堂に會して午餐會を開き散會したるは午後一時過なりき

●群山港最近の商況

農作の好況と共に人氣引立ち市況は活氣を帶び來れり米穀出廻りも意外に夥しく既に先月中は大阪商船尼崎汽船は二十九回の出入あり同便により母國に移入されたるは大坂米八千四百俵神戶の四千二百俵を初め二萬二千俵の巨額に上り尚ほ小麥七千俵は坂神へ及牛皮二萬斤を輸出せり尚ほ米況は先月上旬に於て二三十錢方强氣の處中旬に至り母國大洪水の爲め一時七八十錢の昇騰を見たりしも下旬又々小緩の姿となりしが既に新穀出廻も近くに迫り從ふて價格の下向は自然の數なるべしと

●仁川居留民會開催

來る廿八日午後七時第二十回仁川居留民會開會左肥の件を決議する由

(一)明治四十二年度會計檢查報告
(二)明治四十二年度各會計歲入出總計決算報告
(三)第百五號議案仁川病院寄付金處分の件
(四)第百六號議案明治四十三年度特別會計仁川病院歲入出追加豫算
(五)第百七號議案明治四十三年度歲入出更正豫算
(六)第百八號議案民團有土地賣却の件
(七)第百九號議案明治四十三年度歲入出追加豫算の件
(八)第百十號議案貸地料減額の件

●韓銀貨幣發行週報(自九月十八日至九月廿四日)

銀行券總發行平均高	一五、三三七、二六六・〇〇〇
內正貨準備發行平均高	五、四七七、一七九・〇〇〇
保證準備發行平均高	九、七五〇、一〇七・〇〇〇
硬貨發行高(九月廿三日現在)	六、七六二、二二六・二〇〇
內金貨二十圓	一、八五〇、〇〇〇・〇〇〇
同十圓	五〇、〇〇〇・〇〇〇
同五圓	五〇、〇〇〇・〇〇〇
銀貨五十錢	九四四、〇〇〇・〇〇〇
同二十錢	一、六五〇、〇〇〇・〇〇〇
同十錢	一、二五三、三三一・二〇〇
白銅貨五錢	五九三、七五〇・〇〇〇
青銅貨一錢	二九一、二〇〇・〇〇〇
同五厘	七六、九四五・〇〇〇

●釜山水道の通水式

去る四十年五月以來百十餘萬圓の巨資を投じて鋭意工事中なる同地水道は此程漸く竣工して二十五日盛大なる通水式を擧行したり現在に於ける同地日鮮人口三万五千餘に對し給水設備は五萬五千人なりと而して一日一人の給水量水は冬期は約一斗七升春秋期は四斗六升夏期は五斗五升にして水源地は聖知谷及び高遠見谷の二箇所なりと云ふ

●京城民會と委員會

京城民會は既報の如く二十三日開會し其結果龍山水道栓使用に關する水道會社との契約の件は直ちに可決せられ火葬場新設豫算及四十三年度京城民團決算並に四十二年度四十三年度元龍山民團決算報告の件は委員付托となり委員には中村、曾我、島、大村百、皆川、粂古、石井の七氏を擧げ廿六日午後四時より同委員會を開く

●店員善行表旌者數

既報京城商業會議所店員獎勵規定により表旌さるゝは二等五人三等五人四等廿四人の由なるが各賞牌は四等に別ち一等純金二等赤銅三等銀四等銀小型にして目下製造中なりと云ふ

●趙重應氏東京出發

曾禰前統監の葬儀參列の爲め東上したる前農相趙重應氏は二十五日東京出發廿六日は宮島着一泊の上歸京の途に就く旨來電ありたりと

●釜山民團民長更任

釜山民團民長石原半右衛門氏は二十六日依願其職を免ぜられ後任に助役栗屋端一氏撰任せられたり

●石塚參與官歸任期

目下上京中なる石塚參與官は新官制を携帶し來る二十九日頃歸任すべしと

公人私人

▲森淸右エ門(有馬組主) 二十四日釜山より入京京城ホテルへ投宿
▲兩角熊雄(平壤水道事務所長) 二十四日釜山へ向け出發す
▲淺井佐一郎(日韓興業會社員) 二十四日仁川へ向け出發
▲尾高次郎 同上
▲園山勇(代議士) 二十四日平壤へ
▲八田吉平(水原農林學校敎授) 二十四日水原へ歸任す
▲久治米邦臧(農商工部園藝模範場長) 二十五日鎭南浦より入京山本旅館投宿
▲花井藤一郎(平壤勸業模範場技師) 二十五日平壤より入京浦尾へ投宿
▲並河波藏 廿五日平壤より歸京浦尾
▲並河理二郎 同上
▲園山勇(代議士) 同上
▲劉猛(內部土木局長) 二十六日午前八時四十分南大門着歸京

▲京城手形交換高▼

九月	金高	枚數
廿六日	八三、〇五九、五三	四八四

▲大阪期米電報▼

▲前場(廿六日) 九月限寄十四圓八十錢▲十月限寄八十一錢▲十一月限寄八十六錢

▲仁川米豆取引所▼

▲前場(廿六日) 十月三節九圓六十五錢▲出來高百石▲十一月一節八圓八十六錢七錢九錢八錢九十錢八十九錢一錢三錢九十錢▲二節九十三錢一錢二錢一錢九十錢▲三節九十一錢二錢一錢▲出來高五千百五十石

▲仁川港の出入船舶▼

[illegible]武丸 廿七日大阪より神戶門司を經て入港
▲日高丸 廿七日午前十時芝罘へ出向

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 廿五日の分如左
乘車客 五五九 下車客 七一一
乘車賃金 一、一八二、五八

▲南大門荷物扱高 廿五日の分如左
發送 六七噸 到着 二一八噸
發送賃金 二六一、五六

▲龍山驛の乘降客 廿五日の分如左
乘車客 二四四 下車客 一五三
乘車賃金 二二五、八四

▲龍山驛荷物扱高 廿五日の分如左
發送 一一噸 到着 九四噸 發送
賃金 三〇三、〇三

▲仁川商況(九月廿五日)

昨今農事繁忙の期なるを以つて穀物の出廻り薄く地方にある殘穀の弗々廻着を見るに過ぎず然し來月中旬にも至らば新穀の出廻りを見るに至るべし

▲玄米 昨日入津したるもの約七百俵にして相場は數日來の安含みを持續し黃海上物九圓卅錢見當なるべきも賣買双方睨み合の姿にて未だ手合せ出來ず

▲大豆 地方品薄の爲め廻着殆んど皆無にて昨日長端大豆僅かに八俵の入津を見たるのみ相場は强含みにて八圓五十錢にて朝鮮人との手合せ出來せり尚以外の穀物は茲當分擴大したる入津の見込なし

製鐵所設立の要

(和田工學博士の談)

朝鮮に於ける鐵鑛は三十七八年役後の研究に係る其當初には地理的關係の考より母國同樣硫化鑛(冶里上最劣品)より由來せる褐鐵鑛に推斷され從つて製鐵上の囑望は深甚ならざりしも調查の進行に伴ひ硫化鑛にあらずして善良なる輝鐵よりせる事を認められ茲に甚大の望を繫ると共に我製鐵上有力なる材料を成すに至れり今の官枝光製鐵場の原料としては未た四分一を充すに過ぎざるも朝鮮の西北一帶は頗る鐵鑛に富み製鐵上實に絶好の案地をなせり從ふて此豐富なる原產地に製場を設くるは自然の數にして亦た國家經濟上至大の問題なり目下枝光に於ける鐵鑛一噸約十二圓强に上れるも平壤方面ならば約其半額にして足れり尚は冶鑛上重要なる石炭の如きも是を鎭南浦に移入し平壤炭を混用するとすれば生產費は優に今日の半を殺く事を得べし併し一日二百七八十乃至三百噸の鐵鑛を消費すべき大規模の經營は今尚ほ一考を要すべきも先づ當初は小規模なるを可とす尚ほ一面に於ける利益は元來朝鮮人は母國人に對し經營的技能を認めず母國人は戰爭に勇なるも組織的大經營は歐米人に及ばざる遠しと如此本國人觀は今後の同化上至大の惡響を與ふるものなるが製鐵場の設立は自然の結果として是等の誤解を緩和し得るの利益なるべ

●總督府豫算の內容

總督府本年度豫算は從來の統監府豫算と朝鮮政府豫算とを編合したる來年度豫算と大差なく新官制に依りて新たに[illegible]すべき事業費は總て來年度に讓りたる然れども詔勅に依れる本年後期の地租減稅額六千萬圓及び鐵道金、社還米合計五百八十萬[illegible]なるが此等は歲出に於て節約する事となしたりと

●天氣豫報(自廿六日午後六時至廿七日午後六時)

[illegible]

廿六日(華氏) 最高溫度 六五、九 最低溫度 五四、五

▲大阪期米電報▼ [illegible] 七十六錢止七十七錢

▲仁川米豆取引所▼ [illegible] 八十九錢八十九錢▲出來高三百五十石

●各地方其後の狀況 [illegible]

●總督府豫算の內容 總督府本年度豫算は從來の統監府豫算 [illegible]



大祭日と龍山元町市場

▽れ跳への日本晴れ

併合後最初の大祭日はれ跳への日本晴れであつた王殿下邸は元より商工士民の軒頭に掲げたる日章旗の塵を揚げさる程に吹く風にハタ〳〵の音を立てゝ居る中を龍山元町の商業組合市場の景況を見に行く一寸見た所では稲荷の氏子町內の祭禮と云ふ形である軒燈に國旗紅白段だらの幔幕を張り廻らしたのもある諸種の作り物が店頭の半部を占めて居るが多かつた其の中で最も振つたのが小山陶器店の陶器の寄せ細工の石燈籠で皿、手あぶり、丼、夫れから玄關脇に見るステッキや洋傘を入れる圓い筒の陶器なぞで少しも他物を雜へず美事に出來て居た、次に或る趣味で振つて居たのは植西呉服店の不如歸の海岸の袂れの場で型の如く頒巾振る山の佐用姫擬きに浪子がハンカチーフを振つて居る所、と丈けでモウ善いものを背後の上部の半紙に『早く歸りて頂戴よ』と書かれたるは少々滑稽に感じられた、其他某酒店の一升德利で拵へた御用聞きも面白く見られた、人出も可成りあつたが賑ふのは夜の事であらふと思はれた、沿道で見る朝鮮人の掲揚したる旗が多く竿の七八合目に吊されてある事で是れは爾來注意を與へて欲しいものであるとは電車の內で聞いたことである

獅子王の御婚禮

▽目下專ら御支度中

京都の市立記念動物園で獅子が四頭の兒獅子を生んで然も四頭共頗る無事に可愛らしく育つて居る事は曾て紙上にも報じた所であるが殊に其の中の牡の兒獅子一頭鈴鹿技手夫婦の手で牛乳で育てられて居る者は母獅子に育てられて居る三頭よりもズッと太つて驚く程に大きくなつて体量既に十二三貫目併も小さい時分よりも却つて非常に温順しくなつて決して噛み附くなどの心配もなく日々鈴鹿氏の令息令孃の馬になつたり友達になつたりして遊び戯れ腹が空けば鈴鹿氏夫婦の袖に縋つてウー〳〵云つて食物をねだつて貰へば尾を振つて喜ぶなど實に可愛いさうである此兒獅子の食事は一日二食で一日の分量牛肉三四貫目牛乳一合と云ふ割合ださうだ朝は毎日四五時頃に調で眼を覺してムク〳〵起きて來る夜は九時の鈴が鳴ると自分で箱へ入つて往つて温順しく寢る事になつて居るさうで小さい時分からランプの燈で育つた爲夜は晝間の樣には見ゑなくなつて了つたさうである但し檻には母獅子と一緒に育つて居る三頭の方は矢張獅子の本性通り夜の方が一層よく見ゆるらしいさうで育て方が恁も違ふものかと實に驚く程ださうだ。獅子の如き猛獸でも育て方一つで非常に性質が違ふ事はまだ此他にも澤山あるが第一小さい時分には却つてまだ獅子の本性が殘つて居てよく爪を立てたり齒で噛んだりしたので鈴鹿氏夫婦は常に生傷の絶間が無かつたさうだが夫が大きくなるに隨つて段々齒や爪も出さぬ樣になり叱られゝば聞分けて温順しくなるさうで是等は殊に面白い性質の變り方だ。で鈴鹿氏夫婦は非常に可愛がつて近々檻の中の見獅子の中から勝れて美人らしい牝を選り出して目出度く結婚させるのだと云つて目下支度に忙しいとの事だ是が目出度く調つたら日本生の獅子の若夫婦が始めて出來る譯で實にはや近來での御目出度事であらう

被害者と加害者

▽『玄海灘で泥棒』の誤聞

本月七日本紙三面記事中『玄海灘で泥棒』と題し本月一日關釜聯絡船中に於て和歌山市五番町田中氏七所持の時計を隣席にありし大分縣宇佐郡天津村新貝寛士が窃取し同四日服罪したる旨記載せしが右原文は馬關毎日新聞に登載せられたるものにて本社は一般旅行者の注意を喚起さんとの意志を以て轉載したるものなるが其後聞く所に依れば加害者として傳へられたる新貝は其實被害者なるに右の如く誤り傳へられたる爲め同人は非常に迷惑し居れりとは氣の毒なり

●女を誘惑する惡樓主

▽南山町淸水席の惡計

南山町二丁目に淸水と云へる藝妓置屋あり主人は岡部某とて元廣島西遊廓にて紹介業を營み居りしが數年前渡韓し僅かに三十五圓の金を資本に女將の妹を一奴と名乘らせ外に店借りの妓共二三人と藝妓屋を開業したるに妹の一奴に某待合の主人が惚氣込み一千圓餘りを入れ込みたるが資本となり今では七八名の妓共を抱へしのみか本町六丁目に地人の名義にて小料理屋を營み酌婦の五六名も置きて頗る繁昌其さはの筈、根が紹介人上りの事とて女を誘惑するは手の者にて現に此程も西小門通り日の出樓のお福と云へる酌婦が業体に似合はず初心らしき處に根を附け元支那町高砂に居りしお鶴と云へるこれも廣島にて紹介業を爲せる伊藤と云へる岡部の友人の娘なるものを手蔓となし首尾能くお福を我家へ引附け前借七十圓にて抱へ入れの契約を爲しさて日の出の方へはお福の先夫なりとて自家に出入する博徒の某を使ざし數回登樓せしめた上話込ましめしに先夫の身受なれば仕方なしとて既に日の出樓より引つ張り出さんとせしを淸水の女將がお福と間違へて日の出の女將へ電話を掛けたが破目となり此惡計見事に破れたるが執念深き淸水席夫婦は今にお福を引張出さんと種々手を廻し居れりと聞くが憎を

食用茸と毒茸（中）

（植物園教室にて川村理學士談）

●毒茸を判別する必要
●怖しき一家の笑ひ死
●馬糞で養成の食用茸

▲毒菌の判別　菌には右の如く非常の有毒なるものがあるが此毒菌であるか無いか判別は中々六ケ敷しいので從來縱に裂けるのは毒菌でないと言ひ傳へ來つたが縱に裂ける菌の內でも劇毒のものがある、毒菌は一般に根に球を有し且つ莖に鍔のあるのが多いから此球と鍔のあるのは毒菌と見て差支はないが併し球と鍔がないからと云ふて夫が毒菌でないと云ふ判斷は出來ない▲食菌と毒菌　菌類を細別すると數千の多きに上るが目下食用に供して居るのは二百餘種で、毒菌も普通知れ渡て居るのは三十種程である、今秋に發生する食菌の重なる者を列擧して見ると、松茸、玉茸、千本玉茸、皮茸（シヽタケ）、平茸（ムキタ茸）、黑皮（中國の方言老人毛）、黃玉茸、霜降、玉茸、栗茸、キチ茸、初茸、楢茸、櫻玉茸、粟玉茸、白玉茸、鹿の舌、扇茸、マス茸、フクチ茸、イクチ、綱茸泡茸の二種あり）掃茸、線香茸、墓菌、玉子茸、藪玉イブリコ等であつて又毒菌としては、紅天狗菌（赤蠅取り菌）天狗茸（蠅取菌）玉子天狗菌、カキ玉茸、一本玉茸、月夜菌、毒紅菌（杉松の生季生ず）ガラ初菌（ねぶつて辛ひ物）毒初茸、狐の繪書き舞、ニガクリ菌、柳菌、毒蔓菌等

兇賊巡査を傷く

▽龍山韓一銀行出張所を襲ふ

廿六日午前三時頃龍山東幕一契韓一銀行出張所へ朝鮮服を纒ひたる散髮姿の二十一位の男同じ姿の三十五六の男さが外搆の屋根を乘越へ忍入り同所の溫突事務室の窓を破壞したる物音を請願巡査補廉吉元聞き付け直に現場に至り見るに一名の賊は拔刀して巡査補の左腕に斬付け正服及シャツを徹し長さ三寸許りの表皮劍傷を負はしめ其瞬間に他の一名は屋根に飛び上り巡査補に瓦を投げ付けしかば今一名の賊も隙を得て屋根に飛上り共に逃走したり此急報に接し竹村巡査部長酒本刑事外二名の出張したるに遺失物もなく何等手掛りもなかりしと因に刀は長さ一尺七八寸のものなりと目下嚴重取調中

萬千閣上の統監

▽各自自慢の一品會席上

昨二十五日午後一時頃南山の一角より一望の陽氣の大空に逃れるを見たる我社の觀測子は必定唯事ならずと精神統一を行ひ粗匆のことのない程に下腹に力を籠め透視を行ひしに大事も大事寺內將軍を筆頭に各大官連が御家の重寶一品づゝを萬千閣上に持ち寄りて自慢やら批評やらを試み半日の淸興を恣せせられたるなりき而して萬千閣にては之れを非常の光榮とし他に其の顏振れや品ぶれを話すのも秘し獨りで嬉しがつて居るとか

明法學士の拘引

▽同窓會の制裁を要す

愛知縣人東宇和郡生れ當時新町二丁目中村高一（三五）は三十七年十一月中私書僞造行使に因り重禁錮八箇月罰金五圓監視六箇月に處せられたる曲物にて內地を喰詰め遂に朝鮮に渡り新町に居住し僞鑵製造業を裝ひ明法學士の肩書を振廻し朝鮮人を欺き金品を騙取する所謂羽織破落漢にて過般南部署刑事に引致されし事は某明法學士の引致と題し既報の如くるなが彼は一時南部署より放還されしも證據充分となり兩角檢事の手に起訴せられ昨二十六日檢事局に送らる

●仁川の盜難二件

一昨廿四日朝二時頃仁川山手町一丁目下宿業近造ふし方の裏口より一名の泥棒忍び入家人の寢息をうかゞひ下宿人村松けいの衣類十二點此價格七十三圓を窃取し立去らんとせし處同人が目を覺し泥棒々々と家人を呼起すにも頓着せず遂に強移し何處ともなく逃走したる由其筋へ屆出たり▲仁川宮町一丁目〇三商會阿部貞吉は多くの人夫を使ひ運搬業を營む事とて昨廿四日も午前十時頃人夫を引連れ外出せし處其隙を狙ひ盜賊侵入し店員小川常雄の衣類七點此價格六十圓を盜み逃走したる由其筋へ屆出たりとは戶締りの注意をすることそ必用也

●甚だ高い散髮料

南部龍洞三十六統八戶劉龍萬（二三）は純日本人風の服裝して九月三日古市町理髮職松岡勇太郎方に至り散髮を爲し料金二十五錢の支拂に際し空財布を懷中より出し忘れたから一寸友人より借り受け支拂ふ可し自分は仁川郵便局事務員上田忠と書き置き其儘來らざりしも松岡は大金にあらざれば敢て訴へもせざりしに二十三日南大門にて突然其男と出會せしより催促せしに朝鮮人なる事判明したるも支拂ねより派出所に訴へたるより南部署に於て取調の上檢事局に送らる

●有罪者は內二割

櫻井町宮前文太（三四）古市町十一番戶洋服商分島直平（三四）旭町一丁目松田德太郎（二五）龍山桃山町武田實（三九）櫻井町城井藤次郎（四四）旭町一丁目田川國藏（二七）太平町南方榮藏（四二）旭町三丁目島松之助（三七）龍山元町四丁目七十五番戶村田竹松（二五）元町四丁目七十五番戶松浦角平（三五）の十名は二十四日午後六時頃宮前文太郎方溫突內に於て車座を作り賭博の現場を南部署に檢擧せられ取調の結果宮前分島の兩人は證據充分にて檢事局に送られ其他の八名證據不充分にて說諭放還



梨本宮殿下御前講演の光榮を擔へる
壽座出演の改良講談師　東　操

●浮氣好な女房殿

仁川櫻坂町二丁目船乘業石村宗吉（四十）は內緣の妻なる森いし（二七）と二十四日午前二時頃夫婦喧嘩をなし死ぬの殺すのとの騷ぎに隣家の者より訴へ出たるにより警官出張取鎭め原因を取調べたるに妻いしは子供の三人もある身にも拘らず情夫をこしらへる浮氣者とて斯る喧嘩をなしたる事と判明し懇々說諭を加へ將來を戒めたり

●客臭い大工さん

本町六丁目岡本菓子製造所屆人劉啓斗が二十四日南山町三丁目商等女學校建築場に餅賣りに行きしに大工國本甚太郎なる者一錢のものを五厘に減けろと無理に餅箱に手を掛け殺したるより餅數個を潰し爲めに警察に願出しより說諭の上損害金を出して事濟み

高等女學校 敎授の驅落

京城高等女學校敎授尹貞媛は昨年十月コレラの流行期中知己なる西北學會の第十三稚錫夏方に避難中離れ難き仲となり居たるが遂に五七日前高等官四等を拋つて催と共に驅落ちしたりと

目と耳

●佐野商店新築落成　本町二丁目の同店に於ては豫て新築中の處漸く落成を遂げたるを以て移轉し一層業務に勉勵すると云ふ

▲歌舞伎座　春水一座廿七日の代狂言は前「潮」六場切「喜劇初籠」にして其の重なる役割は左の如し　一心太助（堀越）女學生久保田（本田）番頭佐平（大山）和田新一（河野）野々山岩五郎（谷）丁稚長松（高坂）孝太郎（月野）予分虎松手代芳之助（上田）娘お花（藤本）米津雄三郎（五味）米津お糸（小神）藝妓奴（小西）阪卷お妙（淺井）阪卷東吾（青山）坊主珍念八公（佐藤）伊勢屋淸兵衞（里宮）坂卷高助（一二三）酒屋小僧（森澤）

▲壽座　廿四日より開演したる改良講談東操一座は今回浪花節三河屋當車一座と合併大一座となりたるが二十七日代り番組は左の如し因に場代は五十錢三十錢十錢の三種なりと　浪花節闘の小萬傳（小蝶、糸小春）新講談西郷再度の旗揚（東九州男）浪花節闘取千兩幟千田川傳（小三、糸零次）浪花節大久保三政談一心太助の傳（當車、糸小蝶）新講談日露餘聞滿洲血染の地圖（東操）

▲浪花館　金馬一座廿四日代番組　使小僧（金平）指窕し繪獅子の舞（金遊齋）常盤津八犬傳（小つま）太郎冠者（市馬）南の女郎（金勝）音曲手踊り（金登喜）前夜の續き（花圓遊）曲藝鍰の曲（龜次郎）尺八のいろ〳〵（花堂）朝鮮八（金馬）大切新作喜劇一座總踊



今日の運勢

●九月廿七日舊八月廿三日●二黑赤口乙未闘△一白　衰運日なり保證引受世話事を避け新事手控への事△二黑　塀明かぬ日新事及目論見謀議婚談に忌む遺失酒色の害を戒しむ△三碧　取引金品授受證券圖章の事故障多し旅行轉住に凶△四綠　誘獎勸引を斥くべし旅行新事見合せの事△五黃　情慾に激して損害を受け易き事あり他は大抵進んで吉△六白　欣の日大凡吉殊に農業鑛業林業に妙△七赤　利得ある日賣買取引進んで吉屈入れ飼畜及子孫の事を舉ぐるに凶△八白　業務職務上轉倒齟齬を見る事あり△九紫　改易移易に關する事効あり利得あり賣買取引進んで吉療病衛生に留意すべし（本町五丁目三●館判斷）